



# 荻川小だより

〒956-0011 新潟市秋葉区車場 922-1  
電話：0250-25-2171 FAX：0250-25-2172  
<http://www.ogikawa.city-niigata.ed.jp/>



令和8年6月8日発行

## 「学 習」と「学 び」

教頭 室橋 辰宏

先月行われました運動会では、スローガンの通り、子どもたちが全力を出して楽しんだ最高の運動会となりました。保護者・地域の皆様のご支援とご協力、本当にありがとうございました。

さて、運動会と言えば、1年間の中で、子どもたちにとって大きな行事の一つとして数えられます。その大きな行事を通して、何を学習し、何を学んだのでしょうか。そもそも、「学習」と「学び」の違いについて、普段あまり考えることは多くはないと思いますが、実はこの点はしっかりと分けて意識することが、人の成長に大きく影響すると考えています。ではその違いについて私なりに簡単に説明します。

学 習	学 び
<ul style="list-style-type: none"><li>・教える側が意図して設計するもの。</li><li>・目標・内容・方法がある。</li><li>・外から見える（評価できる）。</li><li>・学習指導要領に基づく営み。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもの内側で起きる変化。</li><li>・意味づけ・納得・つながり。</li><li>・ときに予定外。</li><li>・他者や自己との対話で深まる。</li></ul>
「設計された営み」	「内面で起きる変容」

もう少し哲学的に言うなら、学習は「行為」「教師がつくる」、学びは「変容」「子どもがつくる」となります。

次に、運動会で子どもたちが学習したこと、学んだことはどのようなことか、上記の内容に当てはめて考えてみます。

### 【運動会における学習】

並び方。走り方。競技の仕方。応援の仕方。応援の方法。練習の仕方。下学年への教え方。準備の仕方。係の仕事の仕方。競技中の態度。開閉会式での態度。代表児童としての動き方等々。細かいところまで挙げると本当にたくさんあるかと思えます。

### 【運動会における学び】

これは、子どもたち一人一人の中につくられているかと考えます。例えば、閉会式における二人の応援団長の話から、次のような学びがあったのではないかと感じました。「全力を尽くすことは楽しい」「相手がいるからこそ自分の力が発揮できる」「全力で取り組めるのは周りの人たちの支えのおかげ」「悔しさがあるから次も頑張ることができる」「お互いを称えることは清々しい」などなど。言葉にできない学びがたくさんあったらと想像します。このような自身の学びをしっかりと意味付け価値付けし、さらに言語化し、積み重ねていくことで、自分自身の成長を実感していくものと考えます。日頃の生活の中でも、大小様々な学びはたくさんあります。子どもたち自身が自分の学びを自覚できるよう、学校でも家庭でも地域でも、子どもたちの学びを共に支えていけたらいいなと考えています。

## 学校教育ビジョン

【資質・能力を育成する授業づくりの質的な向上】

対話的な学びと個別最適な学びの一体的な充実を通して、  
考えを深める子どもを育てる

授業づくり部長 佐藤 郁子

かかわり合って学ぶと共に、学習課題や学習内容、学習方法を適切に自己選択・自己決定しながら学び、子どもたちの資質・能力を伸ばしていきます。昨年度からの継続的な取組となります。

特に以下の3点について重点的に取り組みます。

### 1 対話や自己選択・自己決定の場を重視した授業改善

「対話的な学び」と「個別最適な学び」の一体的な充実を目指します。授業デザインだけでなく単元デザインも工夫しながら、単元のゴールを子どもたち自身が自覚することで、子どもの学び方や意欲が変容していくと考えます。必要に応じて、学習課題や学習内容、学習方法を子どもたち自身が自己選択・自己決定する場を設定します。さらに、ICTを日々の授業で取り入れていきます。

### 2 「つばさっ子ワード」と「学びのステップアップ」の活用

「つばさっ子ワード」で、思いや考えをつなぐ言葉を大切にしていきます。特に「分からなさ」も含めて授業で出てきた一人一人の言葉を価値付け、言葉を増やし自学級化していきます。また、「学びのステップアップ」を掲示し、子どもたちが学び方を理解しながら考えを深められるよう働きかけます。

### 3 授業との一体化を目指した家庭学習の推進

家庭学習では、授業での学びや振り返りを通して、気付いたことや疑問を基にした学習を進めていきます。年2回の家庭学習週間では、「つばさっ子カード」を活用し、ご家庭とご協力をいただきながら、学びが習慣となるよう取り組みます。

【自立を促す生徒指導】

他者とかかわり、折り合いをつけながら生活し、  
なりたい自分に向かって努力する子どもを育てる

生徒指導部長 嶋田 美和子

人とかかわりを通して、適切なかかわり方を学び、自分の目標に向かって努力できるように支援していきます。特に以下の3点について重点的に取り組みます。

### 1 異学年や学級でのかかわり合いの工夫

縦割り班や学級で友達とかかわる機会を意図的に増やし、様々な場で適切な他者とかかわり方を学べるように支援します。

### 2 目標に向かって協力する機会の設定

めあてを立てたり振り返りをしたりする時間を大切に、努力する姿を認めていきます。様々な行事や特別活動で、めあてに向かって友達と力を合わせることの良さを実感できるようにします。

### 3 発達段階に応じた学年で身に付けたい力の明示と育成

人と適切なかかわり方ができるようになるため、荻川小学校の子どもたちの実態や子どもたちの発達段階に応じて身に付けたい力を明らかにし、学ぶ機会を設定します。各学級で確実に取り組み、育てていきます。

【特別支援教育】

だれもが安心して過ごせる環境づくり  
～3つの「間」の保障…「空間」「時間」「人間関係」～

特別支援教育部長 池田 央

荻川小学校が、すべての子どもたちにとって安心して過ごせる場所になるために、私たち教職員は、居心地のよい学校、教室になるように、環境整備に努めます。

### 1 「空間」の保障・・・子どもたちが学び、活動する「居場所」をしっかり守ります。

### 2 「時間」の保障・・・活動する時間をしっかり確保し、安心して学べる環境を保障します。

### 3 「人間関係」の保障・・・友達や教師との関係づくりを丁寧に支えていきます。

目に見える環境だけでなく、心的環境、言語環境といった目に見えない環境も整え、「学校が好き」「早く学校に行きたい」と思える学校にしていきます。

「同じこと」と「違うこと」を受け止め、お互いを理解しようとする前向きにがんばる、「人を思うことができる子ども」を目指して、理解教育の充実を図ります。